



## WEEKLY

# 名古屋 ちくさ

題字 伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ  
 承認 1982年 8月24日  
 例会日 火曜日 12:30  
 例会場 名古屋東急ホテル  
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121  
 会長 大谷 恩  
 幹事 松岡 多加倫  
 公イメ-涌上委員 渡 邊 源 市

No. 24

## ロータリーは機会の扉を開く Rotary Opens Opportunities

## 2020～2021年度

RI会長  
ホルガー・クナーク

### 今日の例会

第1806回 2021年(令和3年)3月23日(火)

### 友愛の日

### 先回の例会

第1805回 2021年(令和3年)3月9日(火)晴

### 桜花学園インターアクトクラブ卒業報告

#### ◆それこそロータリー

#### ◆ゲスト紹介 3名

桜花学園高等学校インターアクトクラブ

顧問	河合 保昌 様
3年	上田 紗瑚 様
3年	奥迫 あおい様

#### ◆出席報告

正会員	35(27)名	出席	18名
出席率	66.67%		

### 松岡幹事報告

- 1) 本日の配布案内：クラブアセンブリー案内
- 2) 次週は休会、次回例会は23日です。米山奨学生邱さんの最後の例会になりますので、ご出席の程よろしくお願いいたします。

### 太田副会長挨拶



本日はご公務で欠席の大谷会長に成り代わりましてご挨拶を致します。先ずは本日ゲストとしてお越し頂きました桜花学園インターアクトクラブ顧問 河合保昌先生、3年生の上田紗瑚様、同じく3年生の奥迫あおい様、ようこそお越しいただきました。

後ほどご卒業報告を頂けるという事で、楽しみにしております。

本日は非常事態宣言が解除されて通常の形の例会開催2回目であります。ご存じの通り、愛知県で1月13日に非常事態宣言が発令され、それを受けまして千種ロータリークラブも1月26日から2月全ての例会が休会となりました。

本年度、大谷会長はコロナ禍にあっても、会員皆様に楽しんで参加頂ける例会の企画、開催に心掛けると決意されていたりしましたが、世の中の状況を踏まえ、休会を余儀なくされた事を考えますと、残念であると同時に、改めてコロナの猛威を実感した期間でありました。

一番軽い中等症で入院した50歳の知人の話を聞く機会がありました。その知人は、痛風の既往症を持つ方で、当初はのどの痛みと微熱が発症し、地域の病院で診察を受けたそうです。その時に診断では、大人には珍しいマイコプラズマ肺炎と診断され、併せて行ったPCR検査では陰性だったそうです。服用された薬を一週間飲んでも改善されないので再度検査を受けたところ、陽性反応が出て即入院されました。当初、後遺症の事を考慮してアピガンのみの投与だったそうですが、症状の改善が見られない為、ステロイド剤の点滴を受けたそうです。その薬の副作用なのか、非常に強い鬱状態となり、その後の入院期間中、もしもの事ばかりを考えていたとの事でした。私自身それ迄は身近に入院された方がいなかったのでコロナに対してあまり危機感を持っていませんでしたが、その経験談を聞いて改めて手洗、消毒、うがいなど感染予防に心掛けております。

NHKのまとめによりますと、非常事態宣言が発令されました13日の愛知県のコロナの+感染者数が319名、累計20,089名、亡くなった方の累計が297名だったそうですが、2か月を経過致しまして昨日の+感染者数が8名、感染者数の累計が26,199名、累計544名の方が亡くなりました。亡くなりました方には心からお悔やみを申し上げるところではありますが、数字だけを見ますと確実に感染者の増加ペースは緩やかになっていくと思われれます。

日本でも2月14日にファイザー製のワクチンが承認され17日から先行医療従事者の方から、接種が始まっております。会員皆様の中にもお医者様がいらっしゃいますので、ワクチンについて、様々ご意見がお有りだと思いますが、私は睡眠時無呼吸症がありまして、一説に既往症者に入ると伺いまして、いつ接種の案内が届くのか、今か今かと心待ちにしております。

ただ今この時にも、愛知県、全国でコロナ患者への治療に頑張っている医療従事者の事を考えますと頭が下がる思いであります。

きしくも本日は3月9日、サンキューの日、感謝の日であります。全国で頑張っている医療従事者始め全ての方に感謝の言葉を添えまして私の挨拶と致します。サンキュー！



ロータリー財団

ポールハリスフェロー認証バッジ授与  
PHF+2：伊藤 健文 君 谷口 優 君



桜花学園高等学校インターアクトクラブ卒業報告

◆インターアクト委員会 福井副委員長よりお祝いのことば



上田さん、奥迫さん、ご卒業おめでとうございます。

通常の高校生活の中ではできない経験を沢山してこられたのかなと思います。そういった経験は、これから社会に出られた時、またもっと年をとってご家族の介護をされるような

状況になった時、必ず役に立つことと思います。高校生活での経験を誇りに思っ自分の糧とし、自信を持って踏み出して頂きたいなと思います。

また、このコロナ禍において思うような活動が出来なかったことも有ると思います。前向きに考えれば、通常では経験できない特殊な環境で高校生活を過ごしたという事にもつながります。そういったことも経験の一つ、自信を持って周りの人に前向きな影響を与えてあげられるよう今後も頑張っていたいただきたいと思います。

また、顧問の河合先生、毎年毎年、生徒たちをしっかりまとめ上げ最後には送りだされる、本当に頭の下がる思いです。ただ、時代が変わってもインターアクトクラブの本質は同じだと思います。毎年、そういった本質の部分を生徒に伝えて、そのような気持ちを持った人を社会に輩出していくという非常に大事な機能を果たしておられると思います。我々ロータリークラブも陰ながらお手伝いさせていただきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

卒業のご挨拶

◆インターアクトクラブ 上田 紗瑚 様



皆さんこんにちは。上田紗瑚です。私はインターアクトクラブの活動を通して積極性を身に着けることを目標としてきました。

入部したばかりの頃は、こうして人前に立つと頭が真っ白になってしまったり、自分から動くことも苦手だったので先輩方に頼ってばかりでした。そんなままではいけないと、ボラ

ンティア後には自分の反省点をしっかり見つけるようにして、次のボランティア活動につなげることができるよう努力してきました。ボランティアを重ねることに、だんだん反省点も減ってきて、自分から率先して動くことにも慣れてきました。そして、2年生の後期から部長を務めさせていただきました。自分の気の緩みが大きなミスに繋がるという事もわかり、自分の判断や行動に責任を持つことの重要性を実感しました。友人の支えや顧問の先生のご指導のお蔭で、最後まで自分らしさを忘れずにやり遂げることができました。そして、最初に目標としていた「積極性を身に着けること」、これもしっかりと達成する事ができ、人間として成長することができたと思います。

また、手話も学び、手話の技能検定も取得したいという目標もありました。最終的には全国大会への出場や入賞なども果たすことができました。このように私のインターアクトクラブでの3年間はとても充実していました。このようなことができたのも、顧問の河合先生、友人のお蔭でもあったと思います。3年間で培ってきた能力を生かすことができるようにしたいと思っています。ありがとうございました。

◆インターアクトクラブ 奥迫 あおい 様



私は人前で話すことが苦手でした。そんな自分を変えたくて、ボランティアを通して人の助けができる、多くの人とかかわることができるインターアクトクラブに入部しました。

初めは緊張して何を話していいのかわかりませんでした。回数を重ねる毎にお年寄りの方との会話の楽しさを学びました。日常会話から始まり自分は聞き手にまわり、相手の目を見て笑顔で話すことの大切さも学びました。戦争当時の話をしていただいたり、「今が一番いいと思える様に過ごして下さい」といった言葉もいただきました。今迄の私の生活では決して味わう事の出来なかった体験ができたと思っています。

また、2年生の時には RYLA セミナーにも参加させていただきました。人前に立って早い判断力や決断力があるのが格好いいリーダーだと思っていましたが、セミナーを通してサーバントリーダーの大切さにも気づくことができました。

インターアクトクラブで楽しく活動をさせていただけたのもロータリークラブの皆様のおかげだと思います。ありがとうございました。

◆顧問 河合 保昌 先生より 「コロナ過でのインターアクトクラブの現状」について



お久しぶりです。1年半ぶりくらいかと思います。

このコロナの事で、昨年3月から5月末まで本校は休校になりました。そのこともあり、夏休みはお盆の3日間を除き、授業に振替えて、生徒にとっても我々教員にとっても大変な時期を過ごしました。

インターアクトクラブの現状としては、1年生はボランティアをしたいとクラブへ入部しても何もできていない、当然2年生も先輩になったのですが、今度はボランティアを通じて先輩から後輩に様々なことが受け継がれてきたことがコロナ禍でボランティアがなくなり、部活の時間に皆が集まっても何もやる事が無い、といった状況です。

コロナの影響で、部活の繋がりが受け継がれなくなったことが一番の問題。人間関係を保つのに苦労しております。まだまだ対外的なボランティア活動は厳しい中、何ができるのか、何か新しいことをするのか生徒間の考え方の違いが顕著になり、しかしそれも一つの勉強、いろんな意見の食い違いがある中で、クラブを一つにまとめていくことを考えていかなければいけないと思っております。

平成7年、阪神淡路大震災の起こった年にインターアクトクラブができました。それ以来顧問を続けておりますが、毎年難しいなと思っております。これからもご迷惑、またいろいろとお願いをすることがあると思っておりますがよろしくお願いたします。



~~~~~

**ニコボックス**

松岡 多加倫

先日の季楽会は、鮫鯨鍋の得仙さんにお邪魔しました。人数が集まらないと予測されたなかで、なんと18名のご参加をいただきました。ローターリーメンバーでない方々には、季楽会の会費を使わないように配慮しましたが、当日は沢山の会費を使わせていただきました。それから、来年は3月28日にお席が取れましたのでご報告いたします。

中村 明文 会員誕生日お祝い

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 足立 一郎 | 朝倉 寿宜 | 福井 浩道 |
| 萩原喜代子 | 長谷川 亨 | 林 永芳  |
| 伊藤 健文 | 加藤 重雄 | 河合 隆史 |
| 小山 雅弘 | 宮尾 紘司 | 太田 和孝 |
| 重見 有美 | 鈴木 聖三 | 谷口 優  |
| 舎人 経昭 |       |       |

桜花学園インターアクトクラブ 上田様 奥迫様  
ご卒業おめでとうございます

18件 合計 52,000円

➤ 2020 年度報告

会員の皆様、ドナーの皆様、2020年度もキャンヘルプタイラントの活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

世界中が新型コロナウイルスに揺れた2020年は、タイもまたコロナに始まり、コロナに終わった1年でした。こんな状況の中、子供たちの教育支援に支援の手を差し伸べてくださったことに、改めて感謝申し上げます。

日本でも新型コロナウイルス感染に広がりに伴う経済損失、学校へ行けなくなった子供たちの心理的なストレス等の問題が取りざたされていますが、感染拡大の抑制にある程度成功したと思われるタイも状況は大きく変わりません。特に、世界的な観光地を数多く有する観光立国であるタイの観光宿泊業への打撃は、感染抑制策が強力であったこともあって、甚大です。外国人の入国制限がいつ解除されるかもわからない状況が続くことを考えると、外国人観光客に依存してきた多くのビジネスが崩壊していくような気がして心配でなりません。観光業に限らず、在宅勤務が強力に進められ、人の動きが変わったことにより、多くの業種がコロナ禍に喘いでいます。

子どもたちの教育環境も大きく影響を受けました。2020年は約3カ月間、教育機関が閉鎖され、オンライン授業が実施されましたが、立ち上げ当初はトラブルが頻発し、軌道にのった後もインターネット環境が貧弱で、取り残されてしまった子供たちも少なくないと言います。日本でも問題になっているように学校に通えないことによるストレスの問題、また貧困地帯では学校給食が食べられなくなったことによる子供たちの栄養不足も問題化しているとのことです。

キャンヘルプタイランドでは、長年顔の見える支援を旨とし、子供たち、学校の先生たちに直接会って、支援金を手渡しするという形で支援を行ってまいりましたが、2020年は残念ながら、送金のみでの支援となってしまいました。本年度は、子供たちがコロナ禍においてどのような影響を受けているのかを調査し、今後どのような支援が必要とされているのか、支援の形は今までどおりでいいのか、変えていく必要があるのか等、今後の活動を見直す年にできればと考えております。

1日にも早く元のような自由に往来できる世界に戻り、子供たちの笑顔を皆様に直接ご報告できる日が来る日を心待ちにしています。

本年も引き続きご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

会長 西川 弘達

~~~~~

◇ 建設プログラム

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の為、建設プログラムは実施されませんでした。

2021年度は、引き続きタイ北部山岳部やカンボジアでの建設事業の実施を目指していきます。

今年度、建設プログラムへの指定寄付は、次年度以降の事業へ繰り越させていただきます。

#### ◇ 奨学金プログラム

##### 【タイ奨学金プログラム】

2020年度は、新型コロナウイルスの影響でタイでの授与式が実施できなかつた為、全ての学生へ送金により支援しました。今年度から支援金額を5,000パーツにする予定でしたがコロナの影響で学校や学生との連絡に手間取り、前半の3,000パーツは支援できましたが、後半の2,000パーツの支援ができませんでした。ご支援いただいた皆様にお詫びすると共に報告致します。

高校生・専門学校生への支援に移行するため、新規中学生は募集せず、中学2年～専門学校生までの74名を支援いたしました。昨年度からの繰越金3万円と今年度12月現在、皆様からご寄付頂いた金額54万円と、不足した17万円は「指定なし寄付金」を充当させていただきました。なおその後にご寄付を頂きました4万円を次年度に繰越させていただきます。

クリスマスカードや年賀状を奨学生74名全員へ送付しました。桜の便りや紅葉、雪景色はタイの人たちの「憧れの風景」です。みなさまからのお便りを奨学生やその家族も喜んでくれると思いますので、是非お待ちしております。  
(翻訳して奨学生へ送ります)

##### 【カンボジア奨学金プログラム】

本年度は、昨年からの継続奨学生(小学2年生)10名と新規奨学生(小学1年生)10名の合計20名の子ども達へ80ドルずつ、計1,600ドルの支援を行いました。本来なら、タイでの奨学金授与式と一緒に現地授与式を行う予定でしたが、海外渡航ができなかつたので、こちらも現地教育委員会のアンさんへ送金し、授与式を実施していただきました。



#### ◇ 山岳部少数民族支援プログラム

例年なら、愛知大学の学生を連れて山岳少数民族の子ども達のための学生寮「カサロンの家」を訪問し、支援も行ってきましたが、今年度は、ツアー自体が中止となり、「カサロンの家」への支援はできませんでした。

#### ◇ ランチプログラム

2020年度のランチプログラムは、山岳少数民族の子ども達のための学生寮「カサロンの家」への米購入金支援(4万パーツ)を行いました。2020年2月に寮を訪問した際に支援金を手渡し、その後、米を購入した報告写真を頂きました。

「カサロンの家」では、自分たちで米も栽培していますが、姉妹寮の「希望の家」と合わせると1日で約10キロの米を消費し、自給自足には程遠い状況です。子ども達のためには、年間3トン以上の米を必要としますが、4万パーツ(約15万円)の支援で約2.5トンの米を購入することができ、寮での年間の米消費量の半分以上を賄うことができます。



#### ➤ 図書支援プログラム

2019年度、富山県射水市で開催された「おしま手作り絵本コンクール」に出品した絵本が入賞しましたので、その賞状や記念品を2020年度にタイへ発送しました。本来ならタイで行われる奨学金授与式の時に贈呈式を行う予定でしたが、海外渡航ができなかつたため、海外発送で対応しました。2020年度は同コンクールへの出品はできませんでした。

#### ➤ カンボジア緊急支援プログラム

コロナ禍で収入源を絶たれてしまったカンボジアの貧困家庭を救済するため、4月にスタッフ有志で寄付金を集め、計6万円で3か月間の支援を実施しました。追加支援の寄付をネットワーク通信で募ったところ、6万円弱の寄付金が寄せられましたので、7月～9月の3か月間の緊急支援を実施しようとしたが、支援地域の洪水や羽地協力者が出稼ぎで支援地を離れてしまったため、緊急支援金の送金を断念しました。現地の状況や支援方法の妥当性を見極め、支援実施可能なタイミングになりましたら、支援を再開したいと考えます。よって、今年度のカンボジア緊急支援への指定寄付金は、来年度へ繰越させていただきます。ご了承下さい。

~~~~~

#### 《お知らせ》

昨年10月に開催された東京ロータリークラブ100周年記念例会兼祝賀会の模様は「ロータリーの友1月号」にも掲載されておりましたが、この度、当日のダイジェスト映像と、東京RCの100年の歴史を纏めた映像「奉仕の道100年」が東京RCホームページにも掲載されました。東京RCホームページのトップ画面「東京ロータリークラブ創立100周年記念」のバナーをクリックいただくと、ご覧いただけます。  
東京RCホームページ <http://www.tokyo-rc.gr.jp/>